

カンフー・パンダ

2008(平成20)年6月17日鑑賞<角川映画試写室>

★★★



監督＝ジョン・ステイーヴンソン、マーク・オズボーン／声の出演＝ジャック・ブラック／ダスティン・ホフマン／アンジェリーナ・ジョリー／イアン・マクシェーン／ルーシー・リュウ／ジャッキー・チェン／デイヴィッド・クロス／セス・ローガン／ランドル・ダク・キム／ジェームズ・ホン／ダン・フォグラ／マイケル・クラーク・ダンカン（アスミック・エース、角川エンタテインメント配給／2008年アメリカ映画／92分）

……カンフー映画花盛りの中、遂にハリウッドがカンフーの世界に殴り込み！ いかにして、太っちょパンダが「龍の戦士」に変身するの？ またいかにして、悪の戦士タイ・ランの「豹拳」と闘うの？ この映画のテーマは「信じること」。こんな映画を観れば、しばらくの間は嫌なことが多い現実を忘れることができることはたしかだが……。



「龍の戦士」とは？ 「龍の巻物」とは？

この映画の舞台は、中国の山奥にある安住の地「平和の谷」。そこには「翡翠城の奥に眠る龍の巻物の奥義を得たものは史上最強の“龍の戦士”になれる」という言い伝えがあった。「龍の戦士」に今最も近いのは、翡翠城の中でシーフー老師（ダスティン・ホフマン）の指導の下に過酷な修業に励んでいるマスター・タイガー（アンジェリーナ・ジョリー）、マスター・ヘビ（ルーシー・リュウ）、マスター・モンキー（ジャッキー・チェン）、マスター・ツル（デイヴィッド・クロス）、マスター・カマキリ（セス・ローガン）たち、マスター・ファイブの面々。

しかし、およぼよパンダのポー（ジャック・ブラック）も、カンフーへの憧れと「龍の戦士」になりたいと願う気持だけは誰にも負けないよう。ラーメン屋を営む父親のミスター・ピン（ジェームズ・ホン）は、息子がバカな夢を早く諦めて、店を継いでくれることを願っていたが……。

悪役はただ1人だが……

ある日シーファー老師の耳に入ってきたニュースは、脱出不可能といわれたチョーゴン刑務所にしっかり監禁されているはずの悪のカンフー戦士タイ・ラン（イアン・マクシェーン）が、龍の巻物を狙って平和の谷にやってくるというもの。冷静に考えれば、タイ・ランがそんなことを宣言するはずはないから、一体どこからそんなニュースが入ってきたのか不思議だが、こんな娯楽映画でそんな固いことを言ってはダメ。

シーファー老師は右腕的存在であるゼン（ダン・フォグラ）をチョーゴン刑務所に派遣して、ヴァチール所長（マイケル・クラーク・ダンカン）に対して、タイ・ランを注視しその脱獄を絶対阻止するよう伝えたが……。たしかにスクリーン上で観る限り、こんな状態で監禁されているタイ・ランが脱出することは到底不可能。誰もがそう思ったし、ヴァチール所長もそう確信していたが、何ゴトにも絶対はないようだ……。

「偶然などありません」「ただ信じるのです」で本当にいいの？

タイムリーにも、シーファー老師は同時にもう1つの手を打っていた。それは、タイ・ランに龍の巻物を奪取される前に、龍の戦士を決めるべく武術大会を開催すること。村人たちが見守る中、マスター・ファイブを中心とする見事な闘いが続き、マスター・タイガーが龍の戦士に選ばれようとしていたが、まさにその時……。

シーファー老師の師匠であるウーグウェイ導師（ランダル・ダク・キム）が龍の戦士を指差そうとしたその前に、爆竹をイスに仕込むという危険な手段で着地してきたのがポー。そしてこれによって、あのぶよぶよパンダのポーが龍の戦士に決定することに。シーファー老師は「そんなバカな！」「これは何かの間違い、ただの偶然だ」と訴えたが、ウーグウェイ導師は「偶然などありません」と超然としたもの。さあ、ここからポーのカンフー修業が開始したが、ポーには所詮ムリ。あきれ果てて匙を投げるシーファー老師やマスター・ファイブの面々を前に、ウーグウェイ導師は「ただ信じるのです」と冷静だが、そこにタイ・ラン脱獄のニュースが飛び込んできたから、もう最悪！ ホントにそれでいいの……？



KUNG FU PANDA TM & © 2008 by DreamWorks Animation LLC. All Rights Reserved.

(配給：アスミック・エース、角川エンタテインメント)

何ゴトも「動機づけ」が大切！

私のフィットネスクラブでの運動習慣は既に20年間続いているが、その最初の動機づけは、高い入会金を払い、毎年高い年会費を払っているのだから、「利用しなければ損！」というケチ根性。その結果、最初は10分がせいぜいだったウォーキングやランニングも、数年後には10km マラソンに出場するほどに。そして今は、2時間40分をかけての20km 走が、毎週日曜日午前中の日課。このように、何ゴトも動機づけが大切だ。

すると、食いしん坊のポーを真剣にカンフーに取り組ませるための動機づけには何がベスト……？ このように、生徒のキャラクターや能力に応じて最適な指導方法を考案するのが「良き教師」なのだ。しかして、シーファー老師が考え出した、ポーのカ

ンフー武術を上達させるためのある秘策とは、ポーの食い意地に着目したユニークなもの……？

見どころ対決 その1

龍の巻物の奪取を目指して平和の谷に向かってくるタイ・ランを迎え撃ち、これを打ち負かそうとしたのはリーダー格であるマスター・タイガーを中心としたマスター・ファイブ。マスター・タイガー、マスター・モンキー、マスター・ツル、マスター・ヘビ、マスター・カマキリの面々がくり出す技は、「虎拳」「猿拳」「鶴拳」「蛇拳」「螳螂拳」など既にお馴染みのもの（？）だが、怒りと復讐に燃えるタイ・ランの「豹拳」は、5人（5匹？）が束になってかかっても敵わないほど強力だった。さらに、シーフー老師も一撃必殺の技でタイ・ランと対峙したが、やはりタイ・ランの方が一枚上。

これらの対決はアニメならではの美しさとリアリティ（？）をもって表現されるから、見どころ対決その1はこれ。

見どころ対決 その2

見どころ対決その2は、もちろんシーフー老師の的を射た指導方法によって急速に成長したポーとタイ・ランとの対決。その体形を見る限り、どう見てもポーよりタイ・ランの方が上だと思うのだが、ポーは意外にも大健闘。

近時、『紅白歌合戦』の向こうを張って、大晦日に放映される『K-1 Premium Dynamite!!』が次第に視聴率を伸ばしている。ちなみに、2004年のK-1ファイター魔娑斗と「神の子」山本“KID”徳郁との対決は、最高瞬間視聴率31.6%を記録したほどだ。所詮出来レースのプロレスと違い、「K-1」は力と力、技と技の真剣勝負だから観ていて迫力があり、面白いのは当然。しかして、アニメながらそんな真剣勝負をみせるポーとタイ・ランの対決がこの映画の見どころ対決その2であり、かつこの映画最大の見どころ！

アニメの世界でも米中急接近！

強固な日米同盟の維持が日本国繁栄の第一条件だと言われているが、共和党政権から民主党政権に移行すれば、アメリカは日本を通り越して中国へ軸足を移し、ますま

す米中接近が強くなるのでは……？ 遂に民主党の大統領候補がオバマ氏に決定した今、日本ではそんな議論が一部で起きているが、さてその是非は……？

『カンフー・パンダ』をつくったドリームワークス アニメーションは、これまで『シュレック』シリーズや『マダガスカル』などの大ヒットアニメをつくってきた会社。したがって、特に中国との接点があったとは思えないのだが、なぜ突然パンダを主人公とし、ジャッキー・チェン流カンフー（？）を中心とした中華テイストを満載したこのアニメをつくったの……？ それが私には少し不思議。2008年8月の北京オリンピックに向けて、映画を通して米中接近をさらに加速させようとする意図があったのかもしれないが、ハリウッドがここまでジャッキー・チェン映画や『グリーン・ディスティニー』（00年）、『HERO（英雄）』（02年）などにオマージュを捧げるのは一体なぜ……？

日本では夏休みに宮崎駿アニメの『崖の上のポニョ』（08年）が公開され、アニメの分野では世界最高水準をキープしている（？）から、別にそんな「勘ぐり」をする必要はないのかもしれないが、技術面や人材面を含め、アニメの世界での米中急接近が進めば、たちまち日本を追い越してしまうのでは……？

2008(平成20)年6月24日記

ミニコラム

プロ格闘家転向への期待

中国がカンフーなら、日本は柔道。そう高らかに宣言できないのはつらいが、北京五輪100キロ超級で世界の強豪を蹴散らした金メダリスト石井慧選手は別。ところが、ロンドン五輪に2連覇の期待がかかる彼が、プロ格闘家への転向を表明したから大変。全日本柔道連盟は「本人の意思が固いなら仕方ない」と慰留する気がなさそうだが、これは彼が何かと問題発言をくり返してきたことと関連がありそう。

バルセロナ五輪78キロ級金メダルの吉田秀彦は引退後の転向だし、横綱曙は期待を裏切ったから、K-1やPRIDEは21歳の石井の加入に大きな期待を。恒例となった大晦日の『K-1 Dynamite!!』の視聴率も大幅アップしそうだ。その後、「国士舘大学の卒業を決めてから考えたい」とトーンダウンしたが、さてその行方は？

2008（平成20）年10月23日記